



国際交流員カロリンのコラム

魔女の夜 「Hexennacht」 (ヘクセンナフト)



ドイツの北の方に、とても有名な山があります。なぜ有名なのかというと、その山にはドイツのあちこちから魔女が集まるといわれているからです。その山の名前は「Blocksberg (ブロックスベルク)」といいます。

ブロックスベルクは風が強く、一年間のうち300日は霧が出ているので、不思議な光が見えたり、何も見えなくなったりします。



昔の人は、その現象を科学的に説明できなかったのでとても怖かったはずですが、幽霊や魔女を見たという色々な恐ろしい伝説があります。遭難した猟師の魂の声が聞こえた話や悪魔が切り崩した不思議な形の岩の周りに、魔女の姿が現れた話が多いです。なので、ドイツ人はブロックスベルクと聞くと、山頂で激しく燃え上がる火の周りで踊り狂う恐ろしい魔女を想像します。

ブロックスベルクにはよく魔女が現れると言われていますが、一番恐ろしいのは魔女が騒ぐために集まってくる4月30日の夜「ヴァルプルギスの夜 (Walpurgisnacht、ヴァルプルギスナフト)」です。「ヴァルプルギス (Walpurgis)」は、聖人の名前です。

どうして4月30日に集まるのでしょうか。そして、聖ヴァルプルギスとはどういう関係でしょうか。



昔からヨーロッパでは4月30日に夏の始まりを祝ってききましたが、キリスト教のやり方ではなくもっと古いやり方で、隠れて山に入ってキリスト以外の神様への儀式をして祝っていた人々がいました。その人たちは、まだごく少数派だったキリスト信者から魔女と呼ばれました。

8世紀にはたくさんの宣教師がいましたが、キリスト教はなかなか受け入れられませんでした。そんな中、ヴァルプルギスは精力的にキリスト教を広めたので、魔女と呼ばれる人がどんどん減って、魔女は伝説みtainな存在に変わりました。そして、悪いことが起きたら魔女の仕業だと考えられて、魔女は嫌われました。

ヴァルプルギスは亡くなった後で魔女から守ってくれる聖人となり、人々は4月30日に魔女から守ってもらいたくてヴァルプルギスに祈りを捧げるようになりました。

今でもドイツ人は4月30日の夜を祝いますが、ヴァルプルギスに祈るわけではありません。本当は魔女が存在しないことを分かっているけれど、神秘的な魔女への憧れから魔女の格好をした数万人の人々がブロックスベルクに集まり、大きな火を囲んで歌ったり踊ったり悪騒ぎをします。

魔女に怯えていた「ヴァルプルギスの夜」は、魔女になりきって盛り上がる「魔女の夜」へと変化したのです。

国際交流員カロリンによる ママパパEnglishサロン

市国際交流協会では、子ども連れの方でも気軽に参加いただける英会話サロンを毎月開催しています。

国際交流員のカロリンさんと一緒に、遊びながら気軽に英会

話を楽しんでみませんか？ もちろん、大人の方のみの参加もOKです。子ども好きの方や外国人の方も大歓迎です！

■日時

5月16日(木)、30日(木)
午前10時～11時

■場所

薬師寺コミュニティセンター

■参加費 無料

ただし、参加者は国際交流協会に入会していただきます。(年会費1,000円)

■定員 10名

■申し込み・問い合わせ先

市国際交流協会事務局
(市民協働推進課)

☎(32)8887



TAKE FREE

広報しもつけを設置協力いただけるコンビニエンスストアなどのお店を募集しています。

ご協力いただける場合は総合政策課☎0285 (32) 8886情報広報グループまでご連絡ください。

PC・スマホ
市ホームページ

